

1. 科目名 (単位数)	人間環境学入門 (2 単位)	3. 科目番号	EIIE2103
2. 授業担当教員	山本 静雄		
4. 授業形態	講義、ディスカッション	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係	履修条件はないが、生理学を既習していることが望ましい。解剖学、病原微生物学、免疫学概論、薬理学などの基礎科目を併せて履修すると理解が深まる。		
7. 講義概要	本講義は、「人間」と「環境」に関する基礎知識を広く学び、人間の発育、生活生存と各種環境問題との関連について多角的な視点から理解する力を養うことを目指すものである。「人間」と「環境」に関する多様な「学び」にふれながら、様々な視点から主体的・自律的なくらし方や健康問題を探究する力を身につける。具体的には、「人間」と「環境」に関する諸問題の現状の把握から代表的な思想を取り上げた上で、科学的な理解として、①人間の成長過程における体温調節能力をコアとした「適応のメカニズム」、②重要な生体防御機構である「免疫のしくみ」等について、くらしに役立つ情報と合わせて概説していく。		
8. 学習目標	(1) 「人間の健康にとって環境とは何か」という問いを深く探求する態度を身につける。 (2) 人間と環境に関する知見、基礎的な「適応のメカニズム」、「免疫のしくみ」に対する理解を深め、わかりやすく説明することができる。 (3) 本講義で学んだ知見をふまえ、主体的・自律的なくらし方や健康問題を探究する力を身につける。		
9. アサシメント (宿題) 及びレポート課題	(読解力向上に向けた課題) (1) 講義ごとに送信された資料を熟読し、要点を発表できるようにしておくこと。 (思考力向上に向けた課題) (2) 事前学習で授業内容に示した課題について科学的に考えること。 (文章力向上に向けた課題) (3) 事後学習の内容を簡潔な文章にまとめる。それをレポートとして提出できるようにすること。		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 使用しない。適宜、講義に用いる資料をメールで送信する。 【参考書】 鈴木路子『人間環境教育学』建帛社、2017 年。 西岡秀三、宮崎忠国、村野健太郎 著『改訂新版 地球環境がわかる 改訂 3 版』技術評論社、2023。		
11. 成績評価の規準と評定の方法	【評価の規準】 (1) 「人間の健康にとって環境とは何か」という問いを深く探求する態度を身につけることができたか。 (2) 人間と環境に関する知見、基礎的な「適応のメカニズム」、「免疫のしくみ」に対する理解を深め、わかりやすく説明することができたか。 (3) 本講義で学んだ知見をふまえ、主体的・自律的なくらし方や健康問題を探究する力を身につけることができたか。 【評定の方法】 ①授業態度 (40%) ②課題レポート (30%) ③期末レポート (30%) の成果によって決められる。		
12. 受講生へのメッセージ	1. 最高学府の学生に相応しい主体的な学習活動を実践されるよう期待します。 2. 講義中に必ず質問の機会をもうけますので、不明な点があれば講義の中で質問をして理解することに努めてください。そのことは他の学生にとっても有益なことですから遠慮をしないでください。 3. 講義中の私語及び携帯電話・スマートフォン等の使用は禁止します。 4. レポートは簡潔にまとめ、必ず〆切までに提出してください。 5. 成績評価は実施する授業形態に応じて以下の通りに行います。 A) 対面授業を実施した場合の成績評価は、上記 11. の評定の方法に従って行います。 B) オンライン授業を実施した場合の成績評価は、授業態度 (出席、カメラ・オンの履行、事前・事後学習、音読、質疑応答など) を 40%、課題レポートと小テストを 60% で判定します。 C) 上記 A) と B) の両方で授業を実施した場合の成績評価は、おおむね実施した授業形態の割合に基づいて両方の評価基準を適用して評価します。 (レポートの作成には A4 サイズの用紙を用いること。これらを討議にも用いる。)		
13. オフィスアワー	初回の授業時に周知する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	人間環境学入門で取り上げる講義内容、ヒトの内的環境と外的環境、SDGs (sustainable development goals: 持続可能な開発目標)	事前学習	シラバスで授業内容を確認しておく。送信した資料を読んで概要を把握する。
		事後学習	この授業で取り上げた内容を整理する
第 2 回	環境問題の多様性について (1) 身近な環境問題の概要: 環境の範囲、温暖化 (気候変動)、大気汚染、食料と水など	事前学習	資料を読んで概要を把握する。どのような環境問題が存在しているかを考える
		事後学習	身近な環境問題について整理する
第 3 回	環境問題の多様性について (2) 世界が抱える環境問題の概要: 自然の自浄作用とその限界、越境汚染、成層圏オゾン層の破壊、温室効果ガスなど	事前学習	世界が抱える環境問題に関する資料を読み、現状を把握しておく
		事後学習	本時の授業内容と目的を整理する
第 4 回	環境に対する科学的な理解 (1) エアロゾル (飛沫、微小飛沫) によって感染する主な病原体と病原性・防御方法	事前学習	資料を読んで概要を把握する
		事後学習	エアロゾル感染を防ぐことは難しいが、有効な

			感染防止策を考えなさい
第5回	環境に対する科学的な理解 (2) 土壌、水の中に生息している主な病原体と病原性・防御方法	事前学習	資料を読んで概要を把握する
		事後学習	芽胞を形成する病原体を整理し、理解する
第6回	環境に対する科学的な理解 (3) 食材・食物を介して感染する主な病原体と病原性・防御方法、食中毒（感染型と毒素型の代表例）	事前学習	資料を読んで概要を把握する
		事後学習	本時に学んだ重要事項を整理し、理解する
第7回	環境に対する科学的な理解 (4) ベクター（蚊、ダニ、ノミ）の刺傷を介して感染する主な病原体と病原性・防御方法 【課題レポート】：飛沫・エアロゾル感染するといわれている SARS-CoV-2 の感染を防ぐ上で有効な方策3つを有効なものから順に列記し、それらについて簡潔に述べなさい(150字以内)。	事前学習	資料を読んで概要を把握する
		事後学習	土壌、水の中に生息している主な病原体を分類し、感染経路と予防法を整理する
第8回	環境に対する科学的な理解 (5) 病原体に対する免疫のしくみ：有益な免疫現象（感染症の防御）の発現	事前学習	資料を読んで概要を把握する
		事後学習	免疫現象について整理する
第9回	環境に対する科学的な理解 (6) アレルゲン・自己抗原に対する免疫のしくみ：有害な免疫現象（アレルギー、自己免疫疾患）の発現と予防法、学校給食時の食物アナフィラキシー発症者への緊急対処法、PM 2.5 がアレルギーに及ぼす影響、ハチ毒に起因するアナフィラキシー	事前学習	資料を読んで概要を把握する
		事後学習	環境中の主なアレルゲンを存在場所別に整理し、それらの予防法を記述する
第10回	環境に対する科学的な理解 (7) 身近な環境下に生息している危険な生物（毒蛇、蜂、マダニ、蚊）と対策	事前学習	資料を読んで概要を把握する
		事後学習	各自が居住する地域における危険な生物について調べ、夏～秋に里山への遠足を計画する上で留意すべき事項を整理する
第11回	環境に対する科学的な理解 (8) 身近な環境下に生息している危険な海生生物・植物（有毒海生生物、毒を有する植物・キノコ）と対策	事前学習	資料を読んで概要を把握する
		事後学習	近年東京湾辺りまで北上してきた有毒海生生物と従来から生息していた有毒海生生物を挙げ、注意すべき点を整理する
第12回	環境に対する科学的な理解 (9) 人獣共通感染症、ペットからの感染症、輸入感染症	事前学習	資料を読んで概要を把握する
		事後学習	人獣共通感染はなぜ脅威と考えられているか
第13回	環境に対する科学的な理解 (10) 近年の環境汚染の実状と将来生じるであろうと予測される健康問題	事前学習	資料を読んで概要を把握する
		事後学習	環境が汚染され、破壊されると人類はなぜ困るか
第14回	環境に対する科学的な理解 (11) 再生可能エネルギーとバイオエネルギーの有用性と問題点 【課題レポート】：なぜ環境問題を放置できないのか。その理由を 150 字以内で簡潔に述べなさい。	事前学習	資料を読んで概要を把握する
		事後学習	バイオエネルギーの有用な点と問題点を整理し、理解する
第15回	循環型社会の実現に向けて－「持続可能な社会」を実現する人材の育成について考える－。	事前学習	SDGs について概要を把握する
		事後学習	シラバスに記載された本科目の学習目標を達成するための3つの到達目標を確認し、その到達度を自己評価する